

中間事業報告書

第79期(2024年度)中間期

2024年4月1日～9月30日

目次

ごあいさつ	1
当中間期のレビュー	2
中期経営計画MEX26の目標達成に向けて	3
決算のご報告	5

maxell
Within, the Future

マクセル株式会社

証券コード：6810

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。ここに2024年度(2025年3月期)の中間事業報告書をお届けしますので、ご高覧のほどお願い申しあげます。



当中間期の業績について

当中間期の当社グループを取り巻く事業環境は、輸出を中心とした製品における円安効果やAI関連を中心とした半導体需要の増加などの好要因があったものの、中国の景気減速やロシア・ウクライナ情勢の長期化、中東情勢の緊迫化などにより、不透明な状況が続きました。

こうしたなかで当中間期の業績は、売上高は前年同期比3.8%減の63,122百万円となりました。堅調な車載用や市場拡大が進む医療機器用の一次電池、半導体製造工程用を中心とした粘着テープの販売が好調に推移したものの、顧客の在庫調整が長期化している半導体関連製品やライセンス収入の前年度の一過性増収の反動による減収が影響しました。また、利益面につきましても、営業利益は前年同期比8.5%減の4,177百万円、親会社株主に帰属する中間純利益も為替差損の計上の影響し同37.5%減の3,085百万円となりましたが、2024年度の通期計画に対しては概ね順調に推移しております。

中期経営計画「MEX26」の取り組み

当社グループは、2024年度から2026年度までの3年間の中期経営計画MEX26 (Maximum Excellence 2026) を策定し、2024年6月に発表しております。MEX26の目標は、最終年度である2026年度に、営業利益率8%以上、ROIC7.5%超を掲げ、MEX26の期間中において、既存事業にメリハリをつけ、成長事業への投資、事業基盤の整備を加速することとしております。当中間期においては、市場拡大が進む医療機器用の一次電池の増産投資を決定し、すでに生産設備増強や建屋の増築に着手しております。また、総還元性向100%以上を目安とした株主還元強化により企業価値の向上を図ることとしており、その一環として自己株式の取得及び消却を行いました。引き続きMEX26の目標達成に向けて計画した諸施策を着実に進めてまいります。

中間配当について

2024年度の中間配当につきましては、株主の皆様への適正かつ安定的な利益還元を行うという基本方針のもと、本年4月に公表の配当予想のとおり1株当たり25円00銭とさせていただきます。

引き続き、株主・投資家の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーに最高の価値を提供する「価値創出企業」となるべく、全力を尽くしてまいります。引き続きご支援賜りますようお願い申しあげます。

2024年12月
代表取締役 取締役社長
中村 啓次

業績ハイライト

売上高：一次電池や粘着テープ、健康・理美容製品が増収となったが、二次電池や半導体関連製品、ライセンス収入の減収により、
前年同期比**3.8%減**の**63,122**百万円

営業利益：一次電池や健康・理美容製品で増益となったが、ライセンス収入や半導体関連製品の減益により、
前年同期比**8.5%減**の**4,177**百万円

親会社株主に帰属する中間純利益：前年同期比**37.5%減**の**3,085**百万円

1株当たり中間純利益：**68.99**円

総資産：前連結会計年度末より**8,483**百万円減の**162,617**百万円

株主還元策の実行

中期経営計画MEX26の期間中(2024~2026年度)は
総還元性向100%以上を目安として株主還元策を強化

◆自己株式の取得	取得期間	2024年6月6日~9月6日
	取得した株式の総数(総額)	2,739,600株(4,999,929,200円) (取得した全株式は、2024年11月29日付で消却)
	消却後の発行済株式総数	46,956,200株

◆配当	中間配当	25円00銭 (期末配当：25円00銭(予想)、合計：50円00銭(予想))
-----	------	---

今後も株主の皆様への利益還元を経営上の重要な課題と位置付け、利益成長を図ります

中期経営計画MEX26の目標達成に向けて

MEX26では、収益成長のための**事業戦略**とともに、事業戦略を支える積極的な成長投資と株主還元強化を柱とする**財務戦略**を進めることにより**企業価値の最大化**を図ります。また、MEX26の基本方針を社内徹底するための取り組みも進めています。

1. 事業成長に向けた成長投資 -医療機器用一次電池の増産-

需要拡大が進む医療機器用一次電池の増産体制を構築し、生産能力を約2倍*1に増強します。

*1 約2倍：2024年7月時点のマクセルの医療機器用一次電池の生産能力との比較

マクセルの一次電池は、長年培った封止技術、長寿命技術により医療機器用の電池に求められる高い信頼性を実現し、カプセル内視鏡や電子体温計など、小型医療機器に使用されてきました。現在、糖尿病患者の増加に伴い持続血糖モニタリング (CGM*2) 機器の需要が拡大しており、増産投資によりこれに応えていきます。

*2 CGM：Continuous Glucose Monitoring



CGM機器



医療機器用一次電池を生産する小野事業所

増産投資の概要

マクセル株式会社 小野事業所 (兵庫県小野市)

- ①新ライン構築による生産設備増強
- ②建屋増築 (約5,600平方メートル)
- ③2027年10月完工予定
- ④投資額 約50億円

2. タウンホールミーティングによる社内意思統一

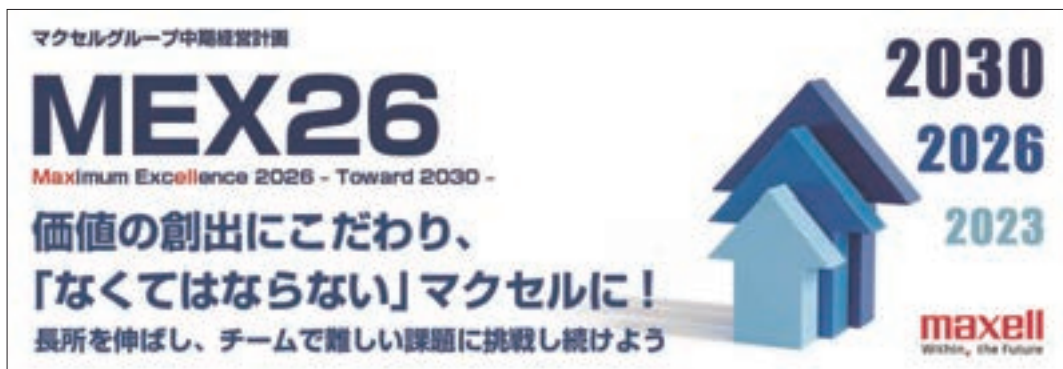
全社員がMEX26の戦略や課題の共通認識を持ち、チームマクセルとして目標を達成するために、国内各拠点におけるタウンホールミーティングを実施しました。

「中期経営計画MEX26の戦略の共有」と「サステナビリティ活動の伝播」を目的として、社長がグループ会社を含めた国内の主要拠点を訪問し、MEX26とサステナビリティ活動の内容を社員に直接説明しました。また、対話を通じた経営と現場のコミュニケーションの深化により、目標達成に向けた社員のモチベーションの向上と難しい課題に挑戦する風土の醸成を進めています。

国内各拠点でタウンホールミーティングを実施



各拠点に掲示したMEX26のポスター



*ポスターは多言語化し、海外拠点にも掲示しています

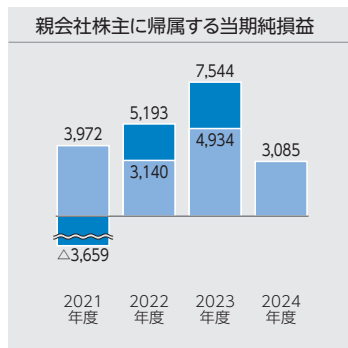
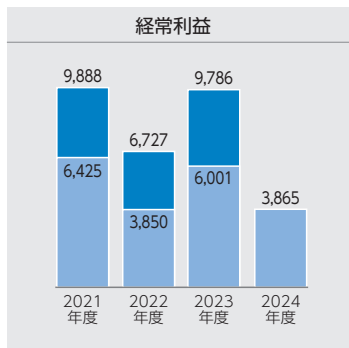
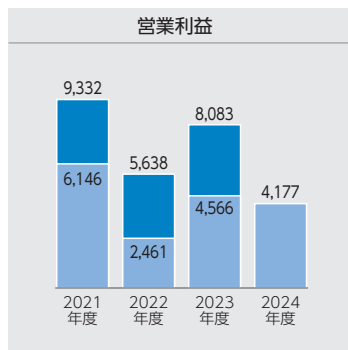
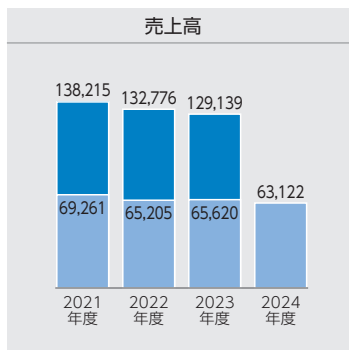
業績のポイント

- 当中間期の売上高は、一次電池や粘着テープ、健康・理美容製品の増収があったものの、二次電池や半導体関連製品、ライセンス収入の減収により、前年同期比3.8% (2,498百万円) 減 (以下の比較はこれに同じ) の63,122百万円となりました。
- 利益面では、一次電池や健康・理美容製品で増益となったものの、ライセンス収入や半導体関連製品の減益により、営業利益は、8.5% (389百万円) 減の4,177百万円、経常利益は、為替差損の計上により、35.6% (2,136百万円) 減の3,865百万円、親会社株主に帰属する中間純利益は、37.5% (1,849百万円) 減の3,085百万円となりました。

連結業績

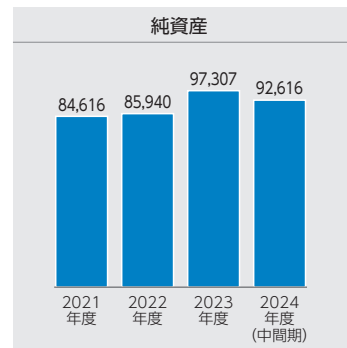
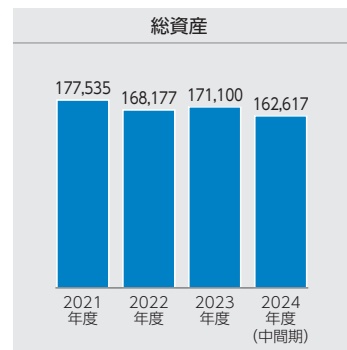
(単位: 百万円)

■ 中間期 ■ 通期



連結財政状態

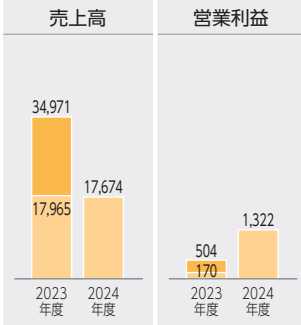
(単位: 百万円)



セグメント別の状況

エネルギー

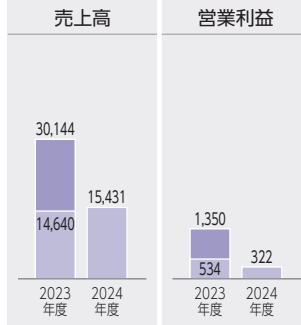
(単位：百万円) ■ 中間期 ■ 通期



一次電池は堅調な車載用や医療機器用の販売増により増収となりましたが、二次電池の販売減により、エネルギー全体の売上高は、1.6% (291百万円) 減の17,674百万円となりました。営業利益は、一次電池の販売増やこれに伴う操業度の改善に加え、円安の影響もあり、677.6% (1,152百万円) 増の1,322百万円となりました。

機能性部材料

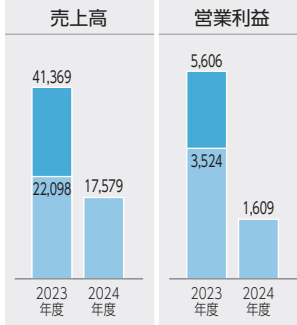
(単位：百万円) ■ 中間期 ■ 通期



粘着テープが半導体製造工程用テープを中心に増収となったことにより、機能性部材料全体の売上高は、5.4% (791百万円) 増の15,431百万円となりました。営業利益は、塗布型セパレータが増益となりましたが、粘着テープ、工業用ゴム製品の減益により、39.7% (212百万円) 減の322百万円となりました。

光学・システム

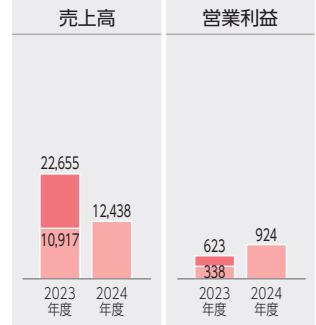
(単位：百万円) ■ 中間期 ■ 通期



ライセンス収入の減収に加え、半導体関連製品の顧客の在庫調整の影響や車載光学部品の減収により、光学・システム全体の売上高は、20.4% (4,519百万円) 減の17,579百万円となりました。営業利益は、ライセンス収入や半導体関連製品、車載光学部品の減収の影響により、54.3% (1,915百万円) 減の1,609百万円となりました。

ライフソリューション

(単位：百万円) ■ 中間期 ■ 通期



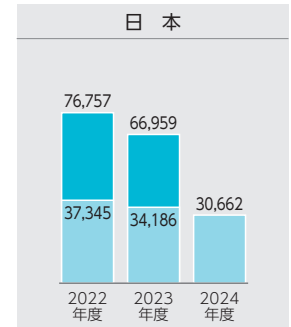
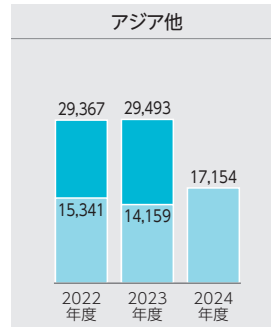
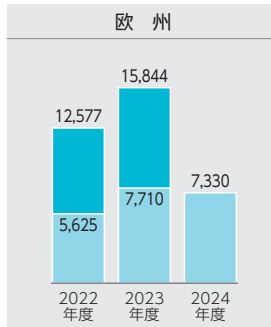
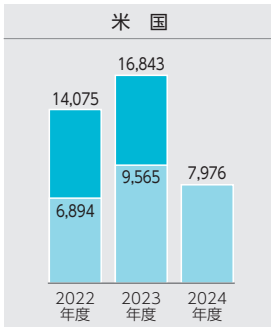
健康・理美容のOEM製品が増収となり、ライフソリューション全体の売上高は、13.9% (1,521百万円) 増の12,438百万円となりました。営業利益は、健康・理美容製品の増収により、173.4% (586百万円) 増の924百万円となりました。

地域別の状況

連結海外売上高推移

(単位：百万円)

■ 中間期 ■ 通期



会社情報 (2024年9月30日現在)

社名	マクセル株式会社
英文社名	Maxell, Ltd.
本店 / 京都本社	京都府乙訓郡大山崎町大山崎小泉1番地
東京本社	東京都港区港南二丁目16番2号 太陽生命品川ビル21F
設立	1960年9月
資本金	122億272万3,485円
従業員数	連結：3,974名

取締役	代表取締役 取締役社長	中村 啓次
	取締役	太田 博之
	取締役	高尾 伸一郎
	取締役	増田 憲俊
	社外取締役	村瀬 幸子
	取締役 (常勤監査等委員)	鈴木 啓之
	社外取締役 (監査等委員)	相神 一裕
	社外取締役 (監査等委員)	秦 和義

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
剰余金の配当の基準日	期末配当 (毎年3月31日) 中間配当 (毎年9月30日)
定時株主総会	毎年6月
公告方法	電子公告 URL: https://www.maxell.co.jp/ 事故その他のやむを得ない事由により 電子公告による公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載します。
証券コード	6810
1単元の株式数	100株

株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
郵便物送付先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
お問い合わせ先	☎0120-094-777 (フリーダイヤル)

株式に関するお手続き

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増及びその他各種お手続きについて
株主様が口座を開設されている証券会社等にお問い合わせ下さい。
- 未払配当金のお支払について
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせ下さい。
お問い合わせ先 ☎0120-094-777 (フリーダイヤル)

当社は、インターネット上のホームページにおいて、製品情報から決算報告まで、皆様とのコミュニケーションツールとして幅広い情報を発信しております。

マクセルホームページアドレス

<https://www.maxell.co.jp/>